

こんにちは、お世話様です。

こんにちは、お世話様です。暑い夏もだいぶ落ち着き、朝夕は秋の風さえ感じられる今日この頃です。子供達も学校等が始まりました。もう、秋の運動会の練習を始めたそうです。親バカですが、長男が1年振りに、リレーの選手になりました。また、楽しみが1つ増えました。保育園の親子競技も楽しみですけどね。

さて、5回目になりました。いろいろな、わからない建築用語や情報をお送りします。今回は、今までの内容と雰囲気を変えて、私の体験談をお話しようと思います。それは資格、「1級建築士」の試験のお話です。



私が合格したのは、平成7年度に行われた試験です。受験資格は細かくありますが、要は建築関係の経験が無いと受験できません。試験は年1回で、学科・製図と2種類の試験を行います。学科が4科目(計画・法規・構造・施工)の合計点で採点し、受かると製図の試験に進みます。だいたい、学科が8月上旬、製図が10月上旬に行われます。救済措置があり、もし製図の試験に落ちても翌年1年は、学科試験免除で製図試験を受けられます。実は私もそのパターンで、製図の試験を受験しました。もう、後が無かったです。

試験会場は、県下4校の高校で行われます。私は長野南高校で受けました。行くと、まずやる事があります。それは高校の机に、製図板をガムテープで固定する事です。そうしないと、集中してて力が入り、無意識に動いて、製図板が机から落ちてしまうのです。

製図の試験は、5時間半で行われます。皆さん、5時間半と言うと、時間ある様に感じられますが、全然足りないのです。書く建物の種類は分かっているのですが、指定された面積内でプランし書くので、プランに最低でも1時間半から2時間はかかるのです。残りの約3時間半内で図面を書き上げなければなりませんので、余裕が無いのです。ましてや、私の課題は3階建てだったので、書き上がるか自信ありませんでした。学校(予備校みたいなものです)の模擬試験でも、書き上げた事が無かったです。それがいざ、始めてみると3階建ての建物でした。一瞬、「今回もダメかな。」と思いましたが、そんな事も言ってもらえない訳がありました。

実は、長男が試験の6日前に生まれたのです。どうしても受からなければなりません。今まで練習した成果を出すべく、必死に書き上げました。裏話ですが、「やめ。」と言われても、答案用紙を回収するまで書いてる気持ちが必要だと学校で言われていたので、書いていました。幸いにも、回収は1番最後でした。

やっとの思いで書き上げて、友達と試験の話をしていると、重要な事に気付きました。そう、指定された1部屋がないのです。どう考えても、その部屋がないのです。重要なミスを犯し、「ああ、また落ちた。」と内心、諦めながらも発表を待ちました。

採点は満点からの減点方式です。試験官の私的にチェックできる減点も含むそうです。「字が汚い。」とかも私的なチェックみたいで。だいたい60点位が合格ラインだそうです。

発表が12月のクリスマスの時期なので、受かってれば良いクリスマスを迎えられるのですが、結果は……。受かってました!!正直、合格すると思わなかったのも、嬉しさも倍増です。多分、1部屋を落とした減点だけで済んだからと思います。この時は、さすがの私も、神を信じました。子供が生まれたので、ご褒美に受からせてくれたんだと、本当に思いました。

そんな事で、私も何とか1級建築士になれました。私の合格した平成7年の合格率は19%でしたが、現在は1ケタという厳しい合格率になってしまいました。その事も踏まえ、皆様の納得できるプランを御提案させて頂く様、努力致します。 よろしくお願ひ致します。

